

聖餐式

マタイ 24 章 15-51 節

「イエスの再臨に備える」

24:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、（読者はよく読み取るように。）

24:16 そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。

24:17 屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。

24:18 畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。

24:19 だがその日、哀れなのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。

24:20 ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。

24:21 そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからのもないような、ひどい苦難があるからです。

24:22 もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます。

24:23 そのとき、『そら、キリストがここにいる』とか、『そこにいる』とか言う者があっても、信じてはいけません。

24:24 にせキリスト、にせ預言者たちが現れて、できれば選民をも惑わそうとして、大きなしるしや不思議なことをして見せます。

24:25 さあ、わたしは、あなたがたに前もって話しました。

24:26 だから、たとい、『そら、荒野にいらっしゃる』と言っても、飛び出して行ってはいけません。『そら、へやにいらっしゃる』と聞いても、信じてはいけません。

24:27 人の子の来るのは、いなづまが東から出て、西にひらめくように、ちょうどそのように来るのです。

24:28 死体のある所には、はげたかが集まります。

24:29 だが、これらの日の苦難に続いてすぐに、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。

24:30 そのとき、人の子のしるしが天に現れます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。

24:31 人の子は大きなラッパの響きとともに、御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで、四方からその選びの民を集めます。

24:32 いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかかになって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかります。

24:33 そのように、これらのことのすべてを見たら、あなたがたは、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。

24:34 まことに、あなたがたに告げます。これらのことが全部起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去りません。

24:35 この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。

24:36 ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。

24:37 人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日のようだからです。

24:38 洪水前の日々は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は、飲んだり、食べたり、めとったり、とついたりしていました。

24:39 そして、洪水が来てすべての物をさらってしまうまで、彼らはわからなかったのです。人の子が来るのも、そのとおりです。

24:40 そのとき、畑にふたりいると、ひとりを取られ、ひとりが残されます。

24:41 ふたりの女が臼をひいていると、ひとりを取られ、ひとりが残されます。

24:42 だから、目をさましていなさい。あなたがたは、自分の主がいつ来られるか、知らないからです。

24:43 しかし、このことは知っておきなさい。家の主人は、どろぼうが夜の何時に来ると知っていたら、目を見張っていたでしょうし、また、おめおめと自分の家に押し入れはしなかったでしょう。

24:44 だから、あなたがたも用心していなさい。なぜなら、人の子は、思いがけない時に来るのですから。

24:45 主人から、その家のしもべたちを任されて、食事時には彼らに食事をきちんと与えるような忠実な賢いしもべとは、いったいどれでしょう。

24:46 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見られるしもべは幸いです。

24:47 まことに、あなたがたに告げます。その主人は彼に自分の全財産を任せるようになります。

24:48 ところが、それが悪いしもべで、『主人はまだまだ帰るまい』と心の中で思い、

24:49 その仲間を打ちたたき、酒飲みたちと飲んだり食べたりし始めていると、

24:50 そのしもべの主人は、思いがけない日の思わぬ時間に帰って来ます。

24:51 そして、彼をきびしく罰して、その報いを偽善者たちと同じにするに違いありません。しもべはそこで泣いて歯ざしりするのです。

はじめに

今日から、待降節に入ります。待降節に入ると、イエスのご降誕を祝う準備をし始めます。

実はイエスは、ご自身のご降誕を祝うようには命じておられません。けれども、祝うことは悪いことではありません。

福音を周囲の人に伝えるチャンスとなります。

一方イエスは、ご自身の死を覚え、罪の罰から人類を救うためにその死によって成し遂げられた業を覚えるように命じられました。

定期的に聖餐式に与る理由がここにあります。

今日の聖書箇所は、イエスの再臨に備えるように教えます。

イエスの再臨前に起こる患難時代の過酷さも教えてくれます。

そして、恐ろしい患難が起こる前に、信徒の「携挙」があるという教えに励まされます。

ですから、今日のメッセージは良い知らせと、イエスに仕えようという信徒への促しです。そして、イエスへの奉仕を妨げる物事に気を取られないようにという注意喚起です。

今日の聖書箇所には、大切な教えのポイントがいくつかあります。

1. 患難時代 (24 : 15-26)
2. イエスは突然再臨される (29-31 節)
3. 終わりの時 (32-35 節)
4. 携挙という励まし (36-42 節)
5. 信徒への勧め (43-51 節)

聖餐式に与る日ですので、時間の関係で今日の聖書箇所を詳細に学ぶことはできません。けれども、しっかりと考えるのに十分な内容です。

1. 患難時代 (15-26 節)

21-22 節

24:21 そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからのないような、ひどい苦難があるからです。

24:22 もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます。

この箇所から、患難時代は他と比べようもないほどひどい時代であることがわかります。第二次世界大戦中には、広島や長崎に原爆が投下されました。これは日本の歴史でもっとも恐ろしい出来事です。

しかし、患難時代はそれ以上のものです。世界中で次々と災害が起こり、これを免れる国や人はありません。

もちろん、歴史上恐ろしい出来事は世界各地で起こりましたが、ひとつひとつが個別の出来事です。患難時代はそうではありません。

人類はその罪の性質をもって戦争や虐殺を繰り返してきましたが、患難時代は、神ご自身が起こされるものです。それは、この世の罪深い行いをさばくためです。

患難時代が神の主導によるものであることを、私たちは忘れてはいけません。

今現在、神のさばきにばかり目を向ける必要はありません。ただ覚えておくべきことは、聖書の神がいつの日か栄光を帯びて戻ってこられる前に、この地上にさばきをもたらされるといふ事実です。

2. イエスは突然戻られる。(29-31 節)

イエスは、患難時代の後「すぐに」戻ってこられると明言しておられます。

29-31 節

24:29 だが、これらの日の苦難に続いてすぐに、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。

24:30 そのとき、人の子のしるしが天に現れます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。

24:31 人の子は大きなラッパの響きとともに、御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで、四方からその選びの民を集めます。

イエスが突然に戻られる様子は「いなずま」のようだとあります。(27 節)

そして、太陽や月、星の異常現象がその前に起こります。

ですから、この世に生きる人間がこれを見逃す可能性は一切ありません。

神はこの世を造られました。太陽も月も星も造られました。そして、それらを維持しておられるのも神です。

ですから、創造の時からもっとも衝撃的なことを神がなさろうとするなら、太陽を暗くしたり、月に光らせないようにしたり、星を空から落として人の注目を集めることもおできになります。

当然、全世界が悲しみます。そして、御使いがラッパの響きとともに遣わされ、すべての信徒たちを集めます。

3. 終わりの時 (32-35 節)

この箇所は非常に重要です。というのも、イエスの再臨と患難をひとつの時代の枠内で語っているからです。

この部分は、いちじくのたとえから始まります。

いちじくのたとえは、いちじくの木に葉が出始めると夏が近いと語ります。

私はいちじくを育てたことがあるので、葉が出てきてすぐに大きくなるのを見たことがあります。

イエスが語られた事柄が集中して起こり始めたら、再臨が近いとおっしゃっているのです。

34 節で、これらすべての事がひとつの時代に起こるとはっきりとっておられます。

つまり、25-30 年ほどの間です。

多くのクリスチャンは激しい患難の時代が 7 年間続くと信じています。

激しい患難の時代は 7 年間かもしれませんが、イエスはすべてがひとつの時代に終結すると明言しておられます。

現代の世界情勢を見るなら、私の孫の時代がその時代になる可能性は十分あります。

もちろん、イエスが再臨されるのがいつか、私にはわかりません。イエスご自身も知らないのです。

けれども、わかっていることがあります。神が定められたときに起こるといふ歴史上もっとも衝撃的なことが起こるための条件は、揃いつつあります。

4. 携挙という励まし (36-41 節、30-31 節)

30-31 節

24:30 そのとき、人の子のしるしが天に現れます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。

24:31 人の子は大きなラッパの響きとともに、御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで、四方からその選びの民を集めます。

40-41 節

24:40 そのとき、畑にふたりいると、ひとりを取られ、ひとりが残されます。

24:41 ふたりの女が臼をひいていると、ひとりを取られ、ひとりが残されます。

この箇所は、患難時代が来る前または患難時代の最中に教会の携挙が起こると大半のクリスチャンが考える根拠となる箇所です。

まず、この箇所を学び、この出来事について同じように語る他の箇所も見ましょう。

ここには、畑に二人の人がいると、ひとりを取られてもうひとりは残される、とあります。

また、女性についても同じようなことが起こると語ります。

まず、この文脈を調べましょう。

イエスは、ご自身の再臨について語っておられました。そして、ノアの時代に起こった世界規模の洪水について、話を聞いている人たちに語られました。

ですから、携挙と呼ばれることが起こってひとりの人が天に連れていかれ、もうひとりが残されるなら、それは残された人が神のさばきを受けるという意味です。それは、この文脈から明らかです。

それがいつどのように起こるかはいろいろ議論される部分です。

けれども、イエスは御使いに手伝ってもらって、ご自身の選ばれた信徒たちをいつか集められるとおっしゃいます。

次に挙げる箇所は、この教えを支持する内容です。

黙示録 3 : 10

3:10 あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。

ヨハネ 14 : 3

14:3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。

ダニエル 12 : 1-2

12:1 その時、あなたの国の人々を守る大いなる君、ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかし、その時、あなたの民で、あの書にしるされている者はすべて救われる。

12:2 地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者が目をさます。ある者は永遠のいのちに、ある者はそしりと永遠の忌みに。

テサロニケ第一 4 : 16-18

4:16 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、

4:17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。

4:18 こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

携挙の教えをどのように解釈したとしても、未来のいつかの時点で、神がすべての民をひとつの場所に集められ、患難から救いだされることは明らかです。

このことを神に感謝し、神をたたえます。

しかし大事なものは、私たちがイエスとともに今、そして今後、何をするかです。

5. 今生きている信徒たちへの促し (42-51 節)

今日の聖書個所で一番大切なのは、今この世でイエスの再臨に備えて何をするかです。

イエスは、いくつかのことを促しておられます。

a) 目を覚まして備える。(42-44 節) – イエスはいつ戻ってこられるかわかりません。

目を覚まして備えるとはどういう意味でしょう。

イエスは、敵の活動を見張ることに関連付けておられます。

泥棒が入ってくるのがわかっていて家を見張っていれば、泥棒に立ち向かう備えができます。

ずいぶん前に、「ホームアローン」というクリスマス映画がありました。

皆さんも観たことがあるでしょう。

主人公の男の子は、クリスマスに家族で旅行に出かける予定でしたが、おもいがけず家にひとりだけ取り残されます。

そこに、二人組の泥棒が入ろうとします。

けれども、男の子は泥棒が入ってくるのをしっかりと見張り、いろんな仕掛けを使って泥棒が入るのを阻止しようとしてます。今観てもとてもおもしろいクリスマス映画です。イエスの再臨に備えるためには、私たちも、悪魔が私たちから盗もうとしていることを知っておかなければなりません。

悪魔は、私たちの喜びや、イエスにある自己認識を奪おうとします。また、教会を分裂させたり、クリスチャン家庭やクリスチャンの夫婦の関係に亀裂を生じさせたり、あらゆる悪だくみをします。

これに対抗するには、断固立ち向かうことです。そうすれば、悪魔は逃げていきます。

ヤコブ 4:7

4:7 ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。

常に神と神のみことばを尊重しましょう。

そして、自分の言動のすべてに、神から与えられる深い平安があるか確かめましょう。

b) 今この世で、イエスの忠実なしもべになる。(45-51 節)

イエスの忠実なしもべとなるとはどういう意味でしょう。

それは、イエスのためになす働きをあきらめないということです。

イエスは今後、他の場所での他の奉仕へと皆さんを導かれるかもしれません。けれども、どこでどんな内容でも、イエスに仕えることをやめないでください。

今年のリトリートの講師ヒュー・ブラウン師の言葉を、先週ブラッドさんが引用されましたが、「すべての教会員は弟子であるべきです」と言われました。

現代の教会の最大の問題は、イエスが教えられた弟子のあるべき姿を映す本物の弟子が少ないことです。

マルコ 8:34-35

8:34 それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。

「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

8:35 いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。

多くのクリスチャンは、「いのちを失う」というのが「肉の生き方」を捨てることだということに気づいていません。「肉の生き方」とは、自らの罪深い性質に従って生きる生き方です。

私の思い通りにしたい、という生き方です。

イエスに従うクリスチャンだと言いながら、神のみことばにしっかりと耳を傾けずに自分でなんでも決めることは、何よりも危険な行為です。これでは、本当にイエスに従ってはいません。自分の考えや望みに従っているのです。

人の考えは、神の書である聖書ではなく、人間の書いた本に影響されやすいものです。聖書を自分の指針としましょう。肉の生き方を神に明け渡してきよめていただき、聖霊に満たしていただきましょう。

c) 今イエスに仕えると、未来に報いがある。(47節)

イエスは、ご自身のしもべの必要を常に満たしてください。けれども、イエスの弟子には、未来にも報いが用意されています。

d) 天国の居場所を確保しましょう。地獄は恐ろしい場所です。(51節)

51節には、「偽善者」への警告があります。

では「偽善者」とは何でしょう。

偽善者とは、言っていることと生き方が真逆の人のことです。つまり、神に栄光を帰さないふるまいをするクリスチャンのことです。そういう人が「偽善者」です。

クリスチャンは生き方によって救われてはいませんが、神の聖霊によって新生した人は、聖霊の働きに協力する意思があれば、生き方を変えることができます。

イエスは、変わりたいと思っている弟子たちにはたくさんの恵みを注いでくださいますが、「偽善者」に無駄な時間を費やされません。

ですから、自分が「偽善者」になっていないようにしましょう。人生をイエスに明け渡し、もっとイエスのようになれるよう変えてください、と聖霊に祈り求めましょう。